

始業式（1年生）

## 「もののミカタ」

### 1 自分だけは大丈夫だろう

台風が近づいています。今日は「防災の日」。  
本校も大雨による崖崩れの危険などからJRがストップするなど、  
鹿児島は自然災害の危険といつも隣り合わせ。



身を守るのは「早めの避難」だが、そこには「自分だけは大丈夫だろう」という気持ちも働く。しかし、それは本来備わる「自分だけは大丈夫だろう」という人の本能でもある。

昔、中国の杞というところに、天が落ちてこないかずっと心配している人がいた。心配する必要のないことをあれこれ心配することを「杞憂」という。皆さんの中には今、体育館の天井が落ちてこないか心配で心配でたまらないという人はいないと思う。そんなことをいちいち気にしていたら気が休まる間もなく疲れ切ってしまう。



だから、人には「大丈夫だろう」という本能が備わっている。それを「正常性バイアス」という。「バイアス (BIAS)」とは「偏った」という意味。終業式では「発見のコツ」として「意識して見る」の話だった。今日は「ものの見方」についての話。

### 2 見方を変えると

ここに一枚の写真がある。  
アマミノクロウサギをくわえているネコの写真です。  
皆さんは、この写真を見てどう思う？  
ウサギがかわいそう。とんでもないネコだ！ そう思う？



この写真は、世界自然遺産登録を目指す奄美大島でノネコがアマミノクロウサギをくわえている写真。アマミノクロウサギは国の特別天然記念物。「天然記念物」とは、数が少なくてみんなで守ろうとするもの。そして、さらに希少なものが「特別天然記念物」。

それをくわえているネコ。これは「ノネコ」といい、元々は人間に飼われていたが、飼い主の都合により捨てられ、山の中などで生活するなど自分で餌も取り、人間生活に依存しないネコ。対して、街中で人間生活に依存しているネコを「ノラネコ」。奄美ではこの「ノネコ」による被害が問題になっている。



ではもし、このネコが母親猫で、お腹をすかした子猫たちのために、えさとしてウサギをくわえていたとしたらどう思う？  
だいぶ見方も変わってくるのでは？1枚の写真でも見方を変えると考え方も変わる。いろいろな方向から見ることを「多面的に見る」。

### 3 走れメロス



「メロスは激怒した」……

太宰治の「走れメロス」。この「走れメロス」を読んで、自由研究で最優秀賞を取った中学2年生がいる。「走れメロス」を読んで、読書感想文を書いたのではなく、メロスが時速何Kmで走ったのかを計算した。途中の山賊との戦いとかを考慮しながら計算した結果は時速3.9km。

時速3.9Kmといえば、人が歩く速さとほとんど同じ。

実はメロスは走っていなかったのではないか？……走れよメロス！



「いつも気に掛けないところにはいろいろな謎があって面白い」と中学生は話していた。

1つの方向からだけでなく、いろいろな角度から物事を見る

国語の教科書が数学の研究の材料になった。

「身近なところに謎は転がっている」。

最後に問題。

「丸くて、四角くて、三角に見えるもの」は？



……校長室の前に答えを置いときます。

令和2年9月1日